

北海道合鴨水稲会

水かき通信

今号の内容

2004年度第3回世話人会議事録(事務局).....	1
水田放飼終了後の合鴨の利用に関する株式会社アイマートとの打合について (事務局長 大原睦生).....	2
「環境農業のお手伝い」 ((有)北海道コーラル 三津田耕二).....	4
「北海道合鴨水稲会10周年記念行事についてのお知らせ」 (事務局).....	5
編集後記.....	6

2004年度第3回世話人会議事録

庄子太郎(事務局)

日時: 2004年10月24日

場所: 北海道大学農学部 農業経済学科会議室(札幌市北区北9条西9丁目)

出席者: 世話人 浅野、大西、折坂、間山

事務局 大原、宮入、田中、井上、清水池、庄子、大窪

1: 10周年記念パーティーについて(事務局より)

会場について

- 事務局より会場となるホテルとパーティープランの候補が提示されましたが、ホテルにこだわらずとも料理のできる会議場のようなところのほうがいいのではないかという意見が出されました。

- いろいろなパーティーへ出張して料理をつくっている料理人がいるようなので、その方に依頼し、会場となる場所も紹介してもらうことにしました。料理人との細かい連絡と具体的な交渉は折坂代表が担当するということになりました。

日程について

- 宿泊施設の混雑の問題から、雪祭り

や大学の入学試験と重ならない時期
ということで検討した結果、2月27
日(日)が第一候補としてあげられ
ました。

パーティーの参加者について

- ・会員本人・家族や、会として招待する
お客さんのほかに、会員が個人的に自
分の顧客などを招いてもいいのではな
いかという意見が出されました。
- ・会費の水準は、酒代・会場費を別にし
て料理だけで2500~3000円程度とい
うことで進めることになりました。

2:10周年記念誌について(事務局より)

- ・事務局より編集の進捗状況が報告され
ました。
- ・未定だった記念誌のタイトルについて
アイデアを出しあって検討した結果、
『合鴨の和-ぼちぼちいくべえ-』に
決定しました。

水田放飼終了後の合鴨の利用に関する 株式会社アイマートとの打合せについて

大原陸生

煉屋(滝川市)において、11月14日、
株式会社アイマート岩井政海氏、湯泉清
継氏はじめアイマート社員の方々と、合
鴨水稲会から折坂氏、川本氏、大塚氏、
浅野氏、今橋氏、それに大原が出席し打
合せの会を持ちましたので、その内容を

3:滝川の取引業者からの要望について (折坂代表より)

- ・大塚氏のところに、滝川のスーパー「ア
イマート」から合鴨肉を販売したいと
いう申し入れがありました。今年は試
験的な販売で、買入価格は300円/羽
と提示されているそうです。
- ・取引に先立って、11月14日に滝川で
合鴨肉の試食会が開かれることになっ
ており、折坂代表などが参加の予定で
す。

4:その他

今回の世話人会の予定は以下のように決
定しました。

日時:1月8日(土)14時~

場所:北大農学部農経会議室

報告いたします。

1. アイマートにおける飼育の概要

1) 飼育状況

- ・赤平市共和で、水田放飼終了後
の薩摩鴨と原田孵化場産合鴨を

飼育

- ・水田放飼終了後ブロイラー後期
用を給餌

2) 合鴨品種の性格

- ・薩摩鴨:常に動きまわり、人や
音に敏感に反応、飼育に十分な
注意が必要。
- ・原田孵化場産合鴨:ゆったりし
た性格で飼育しやすい。

3) 肉量

と体重、中抜きと体重、と体歩
留まりとも、原田孵化場産合鴨
が大きい。

4) 肉質

よほど舌の肥えた人でないと分
からない。一般的に違いはない
と考えてよい。

5) 結論

原田孵化場産合鴨が、販売側か
ら見ると優れていた。

2. 合鴨水稲会の合鴨利用について

1) アイマートの提案

- ・商標を【ぼん田の鴨】とする
- ・【ぼん田の鴨】生産協議会を作
り、そこで生産に関する統一を
行う。
- ・第一次飼育者(合鴨放飼生産者)
と第二次飼育者(株式会社アイ

マート)が協力して、鴨肉販売
に責任を持つ。

- ・飼育販売契約の締結
- ・第二次飼育者は契約締結後、引
取りを拒否できない。
- ・同じ銘柄でそろえる。
- ・均一な肉生産のため、水田引き
上げ、引き取り時期を定める。
- ・導入羽数の把握
- ・販売の際には第一次飼育者の名
前を入れる。

2) 質疑

- ・銘柄(品種)を統一すると、も
しも鳥インフルエンザの発生が
あったようなとき、対応が難し
くなる。また、合鴨放飼者には
それぞれ思い入れがある。
- ・合鴨農法の鴨と明記することで、
生産履歴を示し、付加価値を付
けたい。
- ・今後、来年度に向けて話し合う
機会を作る。

3. 株式会社アイマートの概要

- ・本社所在地:滝川市流通団地1
丁目4番地25号
- ・創業22年、肉の販売が主な業務
- ・札幌、苫小牧、千歳など道内5
ヶ所に営業拠点をもつ。

環境農業の御手伝い

(有)北海道コーラル 代表取締役 三津田耕二

日頃、合鴨農法で米作りを推進している皆様、又合鴨農法に携わって居ります皆様、10周年おめでとう御座います。

私と合鴨農法との出会いは、平成11年の春に、合鴨農法の役員の方との出会いから始まりました。それまでは、合鴨すらあまり見る事が無かった私ですが、定山溪で行われた全国大会の時に入会してから、道内の総会、圃場見学会や勉強会に参加し、私なりに勉強させてもらっている内にやはり苦勞も沢山あるという事も理解できる様になり、合鴨農法の良さを一般消費者にも広く理解してもらい、米の流通がもっとスムーズになればと願っております。

今回、水かき通信に寄稿する機会をいただきましたが、「環境農業のお手伝い」ということで、私なりの環境保全型農業への取り組みを紹介したいと思います。

私どもの会社は、天然珊瑚カルシウムミネラルを主成分にした土壤改良剤を取り扱っております。北海道は火山の島のため、元来カルシウムやミネラルが土(畑)に少なく、そこからとれる野菜にもミネラルは豊富ではありません。特に、化学肥料(農薬)しか使っていない農家には、それが顕著に現われています。そこで、沖縄から遠いこの北国の人達も、沖縄の方と同じように珊瑚で長生きをし

てもらいたく、天然サンゴ土壤改良剤「どなん」を販売する決意をいたしました。

生物の起源は海の中からと言われてますが、そんな海で育った珊瑚礁はカルシウムで出来ている体にミネラルをタップリ吸収しそのまま死んでいってくれた動物です。そんな原料を人工的に何も加えず天然のまま粉にした物がこの与那国原産化石サンゴ、「どなん土壤改良剤」なのです。「どなん」の原料となる与那国原産化石サンゴは、数十万年前にサンゴの死骸が隆起し風化された物です。カルシウムとミネラルのバランスが良く風化された為、塩分は変化しております(いわゆる塩基障害はありません)。サンゴは化石の種類から成っており、年代とともに呼び名も変化しますし、性質も変化するものです。品質を見る時はその辺も考慮して選ぶ必要があると思います。

では、何故サンゴは環境の浄化に良いのでしょうか?土の中では微生物等の活性化をはかり、水の浄化にもなり、溶解したミネラルは植物に吸収が良く、吸収されたミネラルは植物・動物に関係無く細胞の活性化(筑波大での話)をはかります。当然、天然のままなので鴨が食べても元気になってくれるし、更に(動物園等での使用)鴨の糞の微生物も活性化され、土壌菌も元気にしてくれ、

直接・間接的に環境へ好影響を及ぼしてくれます。

現在私達の課題は、天然サンゴの製品コストを下げて、使用していただいた所には収量や収益をあげることが今後の課題です。また、カルシウム・ミネラルの吸収された稲は根張り、分けつがよいばかりでなく、米の食味もいので差別化販売ができれば幸いです。

私の会社で取り扱っている商品を通して、私なりの「環境農業のお手伝い」をお話させていただきましたが、最後に、

北海道合鴨水稲会 10周年記念行事についてのお知らせ

(事務局)

北海道合鴨水稲会も今年で10周年を迎えることになりました。前号の水かき通信においてもお知らせしましたが、今回、10周年記念パーティーの開催日、場所等が決定いたしました。案内状は改め会員の皆様にお送りしますが、まず日時、場所等のお知らせをしたいと思います。

日時：2005年 2月27日(日) 午後5:00～8:00(予定)

場所：北海道大学 農学部大講堂(札幌市北区北9条西9丁目 農学部4階)

なお、パーティーの趣向の一つとして、

合鴨農法の会員様方そして消費者の方、合鴨農法の関係者の皆様方の益々のご健康と御健勝を御祈り致します。

● この与那国原産古代琉球化石サンゴについて、NHKで取材を受け、放映されました。放映の内容等、詳しい内容は(有)北海道コーラル又は北海道合鴨水稲会事務局に御問い合わせください。

合鴨肉、合鴨米や生産者の方々が御作りになった野菜等を使用致しまして、合鴨尽くして飲みながら大いに盛り上がり、いこうと考えています。会員以外の方々のご参加もお待ちしていますので、ぜひ御知合いの方々にもお声をかけていただければ、盛大な10周年記念パーティーになると思います。詳しい内容等は案内状にてお知らせ致しますの宜しく願いいたします。なお、案内状は、1月中旬ごろまでにはお届けいたします。

編集後記

雪も降り始め、寒い毎日に備えて脂肪がつき始めてきている事務局の田中です。今年には地震、出来事が多かった年だったと思います。これから、忘年・新年会のシーズンになりますが、最後に泥酔して事件を起こさないようにしたいと思います。(事務局 田中)

来年の10周年パーティーや、記念誌の発行に向けて準備の動きがあわただしくなってきました。年末年始と忙しくなりそうです。よいものができるように事務局としてがんばります。(事務局 庄子)

化石サンゴのことは、今回はじめて知りました。九州ではみかん栽培に効果きめんだったとのこと。合鳴くんにも気に入っていただけだと思います。化石サンゴは、人も摂食することができ体にいいそうです。私も少しは頑丈になるでしょうか。(事務局 清水池)

北海道合鴨水稲会 水かき通信 第16号

2004年 12月 24日発行

(連絡先) 北海道合鴨水稲会事務局

〒060-8589 札幌市北区北9条西9丁目

北海道大学大学院農学研究科

農業経済学講座

田中重貴・井上淳生・清水池義治・庄子太郎

TEL : 011 (706) 4941

FAX : 011 (706) 4179

E-mail : taqtaq@agecon.agr.hokudai.ac.jp